

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時にスタッフが理念を唱和し、実践につなげている。	理念はユニットごとに職員の目につく場所へ掲げている。また、職員は日々基本理念に立ち返り、介護することの大切さを話し合い、確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、町内会の活動等を把握し、参加・協力できるよう検討する。	一階スペースをコミュニティハウスとして地域に開放している。民生委員の会合がそこで行われるなど、運営推進会議を通して地域との一層緊密な関係をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会等、地域の繋がりを通じて、地域貢献を実践することを検討して行く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフと研修内容や行った行事等について報告・話し合いを持ち、施設への理解を得て、より充実したサービスを行えるよう取り組んでいる。	運営推進会議ではテーマを決めて地域の人々に事業所の活動を報告している。話し合いによって地域の人に事業への理解を深めてもらっている。	施設の食事の試食や身近な話題などを通して、地域の人々に事業への理解を一層深めてもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際、事業所での取り組みについて伝えている。	運営推進会議には地域包括支援センターの担当者も参加して、事業所の取り組みや実情を理解してもらっている。	生活保護の人達の受け入れや処遇について、市町村担当者と運営推進会議以外にも話し合いの機会をつくりたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開き、身体拘束の具体的な行為について学習している。	身体拘束に関する研修会を開き、職員間でも啓発に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを行い、虐待に繋がる言動があると思われる時には、改善の方策を検討し、実践することを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や自立支援事業について、必要に応じて対応しているが、全ての職員が制度についての学習は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書等について説明をしている。家族の同意が必要であれば、同意書で確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時には、遠慮せず職員に話しかけられるような雰囲気作りに配慮している。	簡易な手紙を請求書に同封し、入居者の様子を家族に知らせている。職員は訪問者に笑顔で接し、訪問者は他の入居者とも交歓して、気軽に訪問できる雰囲気がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会の際は、スタッフの意見や考えを遠慮せず、出せるよう働きかけている。	職員会議では各ユニットの問題点を検討し、研修後の伝達講習などを行っている。ほぼ月一回あるカンファレンスでは、其々が活発に意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康診断を実施し、スタッフの健康維持に役立っている。勤務形態は職員の希望を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外での研修への参加を検討し、多くの職員が受講し、全体会議で報告するよう計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や交流等により、充実したサービスが行えるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者について相談のあった時には、その内容について記録を残し、その後も状況を確認している。入所前には事前面接を行い、本人について理解する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を取り、話を伺いながら相談に応じるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のあった時には、相談者の状況を確認し、必要ならば他のサービス利用へ対応を考えて行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのコミュニケーションをはかり、本人の思いや希望を汲むように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者が、交流を気兼ねなく出来るよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の体験や経験について話を聞く機会を持ち、家族との外泊・外出についても支援している。	職員は帰宅を希望する入居者に対して、「もう家に帰れないよ」という言葉は禁句にしている。友達や近所の知り合いへの訪問や外泊を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮した席を考えたり、入浴・洗面・トイレなどでトラブルの無いよう、順番を考えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られる時は、支援状況等を報告し、スムーズに生活が送れるよう配慮する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や思いを聞き、対応している。	職員は入居者一人ひとりの思いを大切にしている。他人の世話ができる入居者には、それが生きがいになっている事もあり、進んでやってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ、本人や家族から今までの暮らしぶりを把握する機会を持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで入居者の情報を共有し、日々の様子を記録して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況に合わせ、必要に応じて介護計画の見直しを行い、適切なケアが出来るよう対応している。	介護計画は各ユニットの担当者が作成し、カンファレンスにて解決すべき課題を具体的に話し合い、適切なケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄表や健康チェック表を利用して、日々の体調の把握に努め、ケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に出来る手仕事をお願いしたり、季節の行事を通して色々なサービスを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、地域の役員や市職員と情報交換したり、訪問理容サービスやパンの訪問販売なども利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取り、必要な時は総合病院への受診を行っている。	提携の医療機関に月二回受診しており、緊急の場合も主治医の診療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を各ユニットに一人配置し、夜間の体調不良時には看護師に電話連絡して、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族とも連絡を取り、本人の体調等は看護師が医療機関に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い意思確認書を作成し、家族の思いや本人の様子を見ながら随時対応している。	入居時にアンケートを実施し、終末期における対応についての家族・本人の思いを確認し、また、必要に応じ、その都度家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時にはその都度対応が適切であったか検討し、その後の対応に生かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に入居者も含めて避難訓練を行い、対応の手順について学習している。	定期的に災害を想定し、実際に避難の訓練を実施している。自力で動けない入居者については実際に避難訓練はしていないが、職員が寝具ごと搬送するなど災害時の対策を話し合っている。	消防署の指導を受け、具体的な避難の方法など、さらに実戦的な能力を身につけてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重したケアが行えるように、プライバシー保護の研修を行っている。	耳の遠い人には耳元で話をするなど、職員は利用者一人ひとりの行動に添うように支援している。外部からの個人に関する問い合わせの電話への対応など、研修の成果を職員全員で共有してプライバシーの保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、本人の希望を尋ね、自己決定のサポートを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールと居室を自由に行き来して頂き、レクリエーションを行う時は強制するのではなく、本人の意思を確認する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝癖直しのスプレーを使用したり、結髪の必要な方はお手伝いする。着替え時はご自分で着るものを選んで頂く。汚れた時は、その都度着替えて頂く。外出時はTPOに合わせた服装になるよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は陶器の家庭的な物を使い、ご自分の箸、湯のみ、茶碗を使って頂く。盛り付けも美しく見えるように工夫し、熱い物は熱いうちにお出しする。	献立は通常、管理栄養士が作成するが、月一回は職員が入居者の希望を聞き、献立をたてている。入居者は職員と一緒に下ごしらえや片付けをしている。入居者の状態に応じてきざみ食、ミキサー食など多様な食事形態を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい様な形態を工夫している。水分摂取の少ない方はチェック表を作り、こまめに声かけをして少しずつでも飲んで頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、入れ歯の仕上げ磨きはスタッフが援助する。歯科往診時のアドバイスに従い、ブラシは義歯用、歯間ブラシ、歯の無い方用のブラシ等を一人ひとりに合わせ用意している。うがい時には、うがい薬を使用する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時に紙おしめの方は布パンツで過ごせる様に支援する。排泄後の後始末を援助する。排便時は声をかけてもらい、様子を確認する。	夜間は尿パットを使うこともあるが、なるべく使わないようにして、自立の支援に努めている。入居時に紙パンツであった入居者が布パンツになったという事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かしてもらったり、水分を多めに取って頂き、必要に応じて服薬によるコントロールも行う。1日1回はポータブルトイレに座って頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の温度は好みの温度に。ゆっくり浸かりたい、お湯は多めがいい等の希望に沿うようにしている。入浴拒否のある方は、時間をずらしたり、声かけを工夫したりする。	週二回は入浴してもらっているが、入居者の希望や体調に応じ柔軟に対応している。入浴を忌避する入居者には清拭や足浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整をこまめに行い、必要な時は電気毛布やあんかを使用している。日中昼寝をする方は自由に居室で休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には薬を手渡しし、服薬者名、日付を声に出して誤薬を防ぐ。飲み込みを確認する。飲みにくい場合は、甘いものに混ぜたり工夫をする。薬疹が出た時は看護師が医師に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやお絞り巻き、洗濯物たたみをお願いしたり、食事前には献立を読んで頂き「いただきます」の声かけをお願いする。買い物に出かけた時には好きな物を買って頂き、おやつの時に食べて頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ買い物、支払いの支援を行う。施設の外回りの掃除をして下さる方も居られる。季候の良い時期には散歩に出かける。	入居者は月に一度は家族や職員と外出している。その他外出を希望する入居者には職員が付き添って近くの遊歩道での散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、見て実際に手にとって好きな物を選んでもらえるよう援助する。自分でお金の計算をしようとする方は、計算を援助し、外食時にはメニューを見て、好きな物を選んで頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかける方には自由に電話を使ってもらう。手作りの品を家族に送る方には発送の手続きを援助する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの温度について希望があればその都度対応し、適温になる様に調整する。入居者の作品を季節ごとに掲示したり、トイレや洗面所が分かる様に張り紙を工夫している。	共有空間には入居者の趣味を活かし、絵や書などの作品を掲示し、また、生花を飾り、居心地よく過ごせる雰囲気づくりを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い窓際にくつろげるように、椅子やテーブルを置いたり、居室入口に暖簾を付けて落ち着けるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の筆筒、引き出し、時計、毛布など使い慣れた物を使って頂いている。写真を貼ったり、観葉植物を置いたりしている。	入居者は居室に使い慣れたテレビなどを置き、また、自作の気に入った書画を壁に貼って、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に張り紙を工夫したり、通路に手摺を設けたりしている。		